

I まず私達を愛し、私達を創造し（命を与えられ）、救われ（罪の赦しと永遠の命を与えられ）、神から与えられた私達の使命。先行する恵みを感謝しつつ使命として仕事をしたい。

1. 神の恵みに感謝し、神の救いの恵みを伝える世界宣教（海外や、家族、知人への伝道を含む）と主の教会を共に建て上げる。

「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」マルコ16：15。

「キリストご自身が…ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだ（教会）を建て上げるためです」エペソ4：11，12

2. 神の恵みに感謝し、神が創造された世界を神のみこころに添って管理する、世界管理という仕事。

それが職業の意味、意義。神からの大切な使命としての仕事。人が罪を犯す前から神は人に仕事を与えられた。

「神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた」創世記2：15

職業には意味がある＝神が造られた世界の管理という大切な意義。

II 神からの大切な使命、世界管理としての仕事、職業の土台となる御言葉

「神は人をご自身のかたち（三位一体の神のご性質に似せて）として創造された。神のかたち（神のご性質、神と人と交わり協力して使命を果たす）として人を創造し、男と女（協力し合う存在）に彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。増えよ。地に満ちよ。地（神が造られたすべて）を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生物を支配せよ（管理せよ）』」創世記1：27，28。

1. 学校での勉強の意味＝神が造られた世界を正しく管理する為には、神が造られた世界の仕組みを知る必要がある。その為、地理、理科、数学、化学、物理、医学が役に立つ。

学べば学ぶほど、この世界、生き物は、偶然や、進化の産物ではなく、ものすごく頭の良い方、神が、精密に造られたことが分かる。学べば学ぶほど、宇宙、地球、太陽、人体の機能、秩序のすごさが分かり、神を賛美できる。子供達に聖書から勉強の意味を教える！

2. 国語、英語、外国語を学ぶ意義。

それは、色々な本、文献を読み学ぶ為役に立ち、神が造られた世界の事、人間の事を深く知り続けることが出来る。そして神を崇める。また、色々な言語を学ぶ事は、世界中の人々とのコミュニケーション、理解し合う事に役に立ち、色々な国の人々と協力して、神からの使命の世界管理をすることが出来る。神が与えられた芸術の賜物は、神が造られた自然の素晴らしさを描き神を讃え、音楽は、素晴らしい神を賛美するために用いられる。疲れた人を癒すのに用いられる。

III 神が造られた世界を管理する為神が与えられる仕事、職業

1. 農業、工業、林業、漁業、商業、自然保護、生物の被害から守る仕事、医療、コンピューター関係、福祉、教育、主婦業、子育て、介護、会社経営、事務、スポーツ、芸術、音楽関係、翻訳、通訳、放送関係、警察、警備、弁護士、司法関係、政治、保険、会計士、色々な研究、世界宣教、教会の建て上げに直接に仕える、他色々なものがある。

一つ一つは、バラバラではなく、つながっており、相補い合いながら、神が造られた世界を管理している。

2. クリスマンにとり、救いは、神との交わりの回復だけではなく、働く事の意味の回復も含んでいる。それぞれの仕事に、神は、私達を召される。罪から救って下さるだけではなく、私達を信頼され、なすべき務めを与え、その仕事に召して下さる。しかも神は、突然に思いついて私達を召されるのではない。私達が生まれる前から、私たちの為、なすべき務めを備えて下さり、私達の用意が整った時に召して下さる。神は、

私たち一人一人に違う能力を与え、時が来ると、その努めに召される。出31：1-5。

私達にはみな、それぞれの賜物、能力が神から与えられており、それを訓練する機会が与えられている。そして、それぞれの仕事の場に主が召されて置かれている。私達は、まず、自分の能力を発見し、教えられ、その能力を訓練して行く事が大切。いつか、それをういた務めに召される。私達の準備が整った時、主を信頼して心の耳を澄ませるなら、主が備えておられる自分の務めが見えてくる。

※聖歌「主よ導きの手を伸べたまえ」

## 2. 職業の選択。

- ①みことば。ある人は、御言葉で、宣教師、牧師、伝道師に召される。ある人は、世にあって、職業に就き、神からの使命の世界管理と神の栄光を現わし、振る舞いで主を証しするように召される。
- ②神が自分に与えられている能力、やりがいを感じる事は、神のみこころの職業選択の判断に役に立つ。文系、理系、体を使う、頭を使う、機械が好き、教える事が好き、人との関わりが好き、物作り、指導、指導ではなく助け手、福祉、医療他。祈り求める。私はどのような仕事をすべきでしょうか？神は、導いて下さる。祈り、御言葉、環境、相談、助言、神の摂理、神はすべての事を用いて導かれる。
- ③あられる恵みを下さる神を礼拝することを第1と出来る職業を選ぶ。日曜の礼拝で霊的に強められる時、かえって6日間の仕事も守られる。  
「安息日（神を覚え礼拝する日）を覚えて、これを聖なるもの（第1に優先し取り分ける、確保する）とせよ。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、主の安息（主に感謝し礼拝し、主から霊的な安息、力を得る）である」出20：8-10。

## Ⅲ 仕事をする態度と雇い主の心

### 1. 神から与えられた職場で仕事をする態度、心

＝「キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。ご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべ（主の証し人）として心から神のみこころを行い（不正に加担せず）、人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。奴隷であっても自由人であっても、良いことを行えば、それぞれが主からその報いを受けること（主はすべての心と行いを見ていて下さる）を、あなたがたは知っています」エペソ6：5-8

### 2. 人を雇う側の心

＝「主人たちよ。あなたがたも奴隷（今日的適用：社員、雇われる人）に対して同じようにしなさい。脅すことはやめなさい。あなたがたは、彼らの主、またあなたがたの主が天におられ、主は人を差別なさないことを知っているのです」エペソ6：9。

主は、地位や職業で人を差別なさない。

祈り：神に祈り求め、仕事が与えられ、その仕事により世界管理の使命に加わり、神の栄光を現わすことができますように！